

■ 特別講演 I (第1会場 10:00～11:30)

CAD/CAM 冠保険適用の留意点と口腔内スキャナーの現状

(一社) 奈良県歯科医師会 会長
 (一社) 日本デジタル歯科学会 理事長
 大阪歯科大学・広島大学 客員教授
 末瀬 一彦

デジタルデンティストリーによる歯科医療の革新に伴って、2014年にCAD/CAM冠が医療保険に導入され、適用部位も順調に拡大されてきた。導入当初は「脱離」や「破折」に関する報告が目されたが、現在では多くの臨床的エビデンスが報告され、安定的に臨床応用されている。しかし、CAD/CAM冠に関する施設基準届出は全国的に80%を超えるが、小白歯および第一大臼歯への歯冠修復は金属冠が依然半数以上を占め、前歯部においてもレジン前装冠が優位を占めている。CAD/CAM冠は歯冠修復における新素材として研究開発され、修復材料のオプションの一つであり、決して金属冠の代替材料ではない。臨床応用にあたっては、CAD/CAM冠用レジンの特性を十分に理解するとともに、支台歯形成、適合性、接着操作の基本術式を遵守しなければならない。

一方、最近注目されている口腔内スキャナーは、すでにインプラント治療や矯正歯科治療でも活用され、多くの利点を有している。すなわち、患者の印象採得時の苦痛軽減・安全性の確保、術者のストレス軽減、トレーの使用や模型の移動に伴う感染防止、修復物の即日処置が可能、色調採得が同時に行える、支台歯形成の分析が可能で評価を行うことができる、フェイスナルスキャナーやCT画像との融合が可能、データとして保存管理できることなどが挙げられる。これまでの報告では、4歯程度の歯冠修復であれば、従来の間接法とほぼ同程度の適合性を得ることが可能であるが、全歯列を計測すればその精度はやや劣るとされている。また、口腔内スキャナーの機種によってスキャニングパスが異なること、スムーズな操作を行うためにはある程度のトレーニングを必要とすること、可視できる範囲でしか印象採得が行えないこと、現状は海外製品がほとんどで高価格であることなど改良すべき課題もある。今後はさらなるデジタルデンティストリーによる歯科医療の効率化・標準化に伴うCAD/CAM冠の適用拡大と口腔内スキャナーの保険診療への導入が期待される。

■ 講師のプロフィール



末瀬 一彦

1976年 3月 大阪歯科大学 卒業
1980年 3月 大阪歯科大学大学院 修了
1990年 4月 大阪歯科大学 講師 (歯科補綴学第2講座) (~1997)
1997年 4月 大阪歯科大学歯科理工士専門学校 校長 (~2016)
2008年 4月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長 (兼務 ~2014)
2014年 1月 大阪歯科大学歯科審美学室 教授 (兼務 ~2017)
広島大学歯学部 客員教授

(以下、現在の役職です)

2017年 4月 大阪歯科大学 客員教授
昭和大学歯学部 客員教授
東京医科歯科大学 非常勤講師
岡山歯科理工学院 非常勤講師
2019年 7月 奈良歯科衛生士専門学校 理事長
2020年 1月 京都インプラント研究所 所長
2021年 6月 (一社) 奈良県歯科医師会 会長
2022年 4月 近畿北陸歯科医療管理学会 会長

【学会関係役職】 (2021.7.1 現在)

(一社) 日本デジタル歯科学会 理事長
(一社) 日本歯科理工学会 監事
(一社) 日本歯科審美学会 顧問
(公社) 日本補綴歯科学会 名誉会員 (2018.4 ~)
(一社) 日本歯科理工学会 名誉会員 (2018.4 ~)

【学会専門医】

日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
日本歯科審美学会 認定医
日本歯科理工学会 シニアアドバイザー
日本歯科医療管理学会 認定医

【最近の著書】

・最新歯科衛生士教本 歯科材料	医歯薬出版株式会社	2022
・最新歯科衛生士教本 歯科補綴	医歯薬出版株式会社	2022
・歯科材料学 UPDATE 歯科理工別冊	医歯薬出版株式会社	2021
・クリニカルデジタルデンティストリー	日本歯科評論	2020
・基礎から学ぶCAD/CAM テクノロジー	医歯薬出版株式会社	2019
・口腔内スキャナー入門 補綴臨床別冊	医歯薬出版株式会社	2019
・最新デジタルデンティストリー	医歯薬出版株式会社	2018
・CAD/CAM レジン冠	日本歯科評論	2018
・インプラントガイドイッドサージェリー	医歯薬出版株式会社	2018
・成功するCAD/CAM	永末書店	2016
・インプラント —歯科衛生士ベーシックスタンダード—	医歯薬出版株式会社	2015
・審美歯科 —歯科衛生士ベーシックスタンダード—	医歯薬出版株式会社	2013